直岡	古/=	TAT ≣S	(ATT >)	フテ	1.
르베	П 1 1 Т	ILY ==	-1mm '/	ヘエ	Δ

真岡市行政評価システム

車発車業フネージメントシート

評估	西対象年度	平成	t 25 年度		*	伤手	未マホーング	ノトン	<u> </u>			作师	t日 <u>·</u>	P成26 年 0	4月18日	
事務	务事業名	優良建	建設工事表彰事務					担当	á			総務部 総	務課 契約]検査係		
Ī	女策名	G	効率的で市民にわかりやすいまちづくり					電話番	号	0285-83-8145						
ħ	施策名	4	財政の健全化					□ 実施詞	計画上	・ 『上の主要事業						
基本	本事業名					T _										
法	令根拠	直岡市		 [事表彰要綱						単年度のみ						
	算科目		-般会計	2.総務費	1.総務管			事業期間	間	=] 単年度繰返] 期間限定複	区(開始年度 复数年度(年度~) :度~	年度)	
事	業概要	表彰	は、前年度に完				 設工事を表彰し、建設業 設工事を対象とし、その									
1 :	祖状垣垢の	並 (1)	事務事業の	日的と指標												
			ず勿ず未り	口りこ泊が			動指標(事務事業の活動	h景を裏す指:	煙)の地	#報						
	段(主な活動 度実績	!/					名称	主と以り店	1367 931		22 年度(実績)	23 年度(実績)	24 年度(実績)	25 年度(実績)	26 年度(見込)	
発	注課の推薦		員会で書類及 表彰	び現地審査 審	査結果を市	ア	優良建設工事推薦・審査数			件	9	7	10	10	10	
						1	表彰数			件	7	7	8	8	8	
						ウ 										
	度計画	. دستو	- A		*****	I										
発注課の推薦 審査委員会で書類及び現地審査 審査結果を市 長に報告 優良工事決定 表彰					 オ											
				*人や自然資源等		6対	象指標(対象の大きさを	表す指標)の)推移	24 /4	00 左庇(中婦)	oo 年度(中纬)	24 年度(実績)	25 年度(実績)	00 年度(目:3)	
前	年度に完成し	た市発注	三の請負額130万	5円以上の建設工	F	ア	名称 表彰対象建設工事数			単位件	22 年度(実績)	23 年度(実績)	24 年及(美額)	25 年及(美額)	26 年長(兄込)	
						1										
						<u>.</u>										
						<u>.</u>	エ : オ :									
			、対象をどう			⑦成果指標(対象における意図された対象			象の程度				a. = = (= /= /= /=)	Las 5 (*)(*)		
市	内建設業者の)技術向上	意欲を高める。	•		7	金称 意欲向上割合			単位 %	22 年度(実績)	23 年度(実績)	24 年度(実績)	25 年度(実績)	26 年度(見込)	
						1										
						ウ										
						<u>エ</u> .										
			施策)に結びつ			. <u>8</u> L	位成果指標(結果の達成	戊度を表す指 続	標) の推				L (t-t-t)		/	
建	設工事の適正	Eな施工と	:品質を確保す	る。		名称 ア 標準成績以上(70点)の工事件数割合				単位	22 年度(実績) 78.4	23 年度(実績) 78.4	24 年度(実績) 79.3	25 年度(実績) 84.1	26年度(見込) 84.5	
					イ 優良工事推薦基準以上(75点				%	13.9	20.3	24.9	31.7	32.0		
						ウェ										
						<u>.</u>										
(2)	総事業費の	推移		単位	22 年度(到	ミ績)	23 年度(実績)		24 호	F度(実績	青)	25 年度(到	ミ績)	26 年度	(見込)	
			庫支出金				0	0			0		0		0	
	事 財		県支出金	千円 千円 一			.0.	0			0		0		0	
投	事業費品		地方債	千円 千円			0					0			0	
投 入 量	"`		一般財源 十円				80	90			92		0 112	0		
		事業費調		千円			80	90			92		112		0	
	Д		員従事人数 業務時間	人			76	2 76			2 76		2 76		0	
	件 典 ——		大大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学 大学	千円		:	324	322			319		309		0	
	 -		ζト(A)+(B)	千円			404	412			411		421		0	
(3) 1	事務事業の	環境変化	と・市民意見	等												
した	の事務事業を きっかけは何 ごろどんな終 されたのか。	か?	建設業者の	技術向上を図ると	共に、建設工事の	適正な	施工を確保することを目(的に始まった	•							
状況 令等 いる	務事業を取り (対象者や材) はどう変り か、開始時其 5 年前と比っ わったのか?	艮拠法 比して 別ある べてど	の受注が困難	となり、平成14	年度から5年間は	総合表	3 社及び一般表彰 8 社程 彰の該当がなかった。 分を廃止すると共に、業								件以上	
て関 事業 者等	の事務事業に 係者(住民、 対象者、利害)からどんだ 望が寄せられ	議会、 書関係 ま意見	表彰が励み	となり、品質向上	に対する意欲が高	まる 。	(受賞者の意見)									

2. 1 次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価 ①政策体系との整合性 □ 結びついている □ 見直し余地がある ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか? 公共工事の品質向上につながる。 ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか? ■ 妥当である 目的妥当性評価 ②公共関与の妥当性 ■ 見直し余地がある ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか? 発注者である市が実施することにより、現場技術者の士気高揚や建設工事の品質向上及び技術向上が図られる。 ・税金を投入して達成する目的か? □ 適切である ③対象と意図の妥当性 ■ 対象を見直す必要がある ■ 意図を見直す必要がある ・対象を限定・追加すべきか? 公平に受賞の機会を与える観点から、全工事を対象にしている。 意図を限定・拡充すべきか? ④成果の向上余地 □ 向上余地はない □ 向上余地がある ・成果を向上させる余地はあるか? 工事成績評定結果及び現地調査を基に、表彰審査委員会において適正に審査している。 ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか? ・何が原因で成果向上が期待できないのか? ⑤廃止・休止の成果への影響 ■ 影響がある■ 影響がない ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は? 表彰機会がなくなり、業者の品質向上意欲が薄れる。 有効性評 ⑥類似事業との統合や連携の可能性 ■ 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) ■ 類似事業はない ・他に、類似の形態の事務事業はないか? 他に類似事業はない。 ・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図る □ 他の事業と統合・連携ができる □ 他の事業と統合・連携できない ことができるか? ⑦事業費の削減余地 ■ 削減余地がない □ 削減余地がある ・成果を下げずに事業費を削減できないか? 表彰事務に係る必要最小限の経費である。 (仕様や工法の適正化、住民の協力など) 効率性評価 □ 削減余地がない □ 削減余地がある 審査資料の作成のみで、最小限の人件費である。 ⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか? ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど) 9 受益機会・費用負担の適正化余地 □ 公正・公平である □ 見直し余地がある 公平性評価 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか? 全工事を表彰の対象としている。 ・受益者負担が公正・公平になっているか? 3. 改革・改善方向の部 (1) 改革の方向性(改革案・実行計画) (3) 改革・改善による期待成果 □ 廃止 □ 見直し(□:目的妥当性 □:有効性 □:効率性 □:公平性) □ 統合 □ 継続 コスト 維持 増加 削減 向上 成果 維持 (2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か?それをどう克服していくか? 低下 4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性) □ 記述説明不足(説明責任不充分) □ 評価内容が客観性を欠く □ 評価内容は客観的と言える (1) 1次評価結果の客観性と出来具合 (2) 2 次評価者としての評価結果 (5) 改革・改善による期待成果 ①目的妥当性 🗌 適切 🔲 見直し余地あり ②有効性 🔲 適切 🔲 見直し余地あり □ 適切 □ 見直し余地あり ④公平性 🔲 適切 🔲 見直し余地あり コスト 維持 増加 削減 (3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 (4) その他 2 次評価会議で指摘された事項 向上 □ 廃止 □ 休止 □ 目的絞込み □ 目的拡充 維持 成果 □ 事業統廃合 □ 事業のやり方改善 低下 □ 予算削減 □ 予算増大 □ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)